

ソウル大学校師範大学教育学科との学術交流活動

1. 学術交流活動の概要

2011年11月24日（木）11：30～16：30、ソウル大学校の11棟309室（教授会議室）と10-1棟103室を会場として、ソウル大学校師範大学教育学科主催の学術交流協定調印式と記念講演が行われた。この学術交流活動は、「日中韓の教育課程・教育評価改革の動向」（2008）、「韓国の教育改革の行方」（2009）、「中韓日シンポジウム：アジアにおけるPISA問題」（2011）に引き続き、これまでの日韓の学術交流活動に関する議論をさらに発展・深化させると共に、東アジアに共通した教育改革に関する共同研究を推進することを目的として行われた。当日は本学研究科長の辻本雅史教授と韓国のソウル大学校師範大学教育学科教育学科長のKim, Chang-Dai教授によって、学術交流協定調印式が行われた。その後、ソウル大学校師範大学教育学科のWoo, Yong-Je教授の司会のもと、本学研究科長の辻本雅史教授によって「教育のメディア史の試み－日本近世の場合－」と題する記念講演が行われた。会場には、大学の教員、大学院生など約100名の参加者が集まり、盛況となった。

2. 学術交流協定調印式

はじめに、本学研究科長の辻本雅史教授と韓国のソウル大学校師範大学教育学科教育学科長のKim, Chang-Dai教授によって、交流協定調印式が行われた。



▶本学研究科長とソウル大学校師範大学教育学科教育学科長（ソウル大学校にて）



▶学術交流協定調印式（ソウル大学校にて）

本研究科は、中国の北京師範大学教育学部（教育学系の中国トップ）と2006年6月に部局間交流協定を締結し、これまで教員の相互派遣（集中講義）及び大学院学生の相互派遣等、質の高い学術交流を行うと共に、東アジアに共通した教育課題に関する共同研究を推進

してきた。こうした質の高い交流関係を韓国トップのソウル大学校師範大学教育学科との交流によって広げ、教育学系部局に特化した日中韓三国の、質の保証を伴った緊密なトライアングルの交流関係を本研究科主導で構築することを目指して、部局間交流協定を結ぶこととした。なお、2008年から始まり、今年で3年目になる日韓間の学術交流が今後も継続的に、更なる発展を目指していくことを確認するものであった。

3. 記念講演

続いて、本学研究科長の辻本雅史教授によって「教育のメディア史の試み－日本近世の場合－」と題する記念講演が行われた。



▶本学研究科長の辻本雅史教授の講演（ソウル大学校にて）



▶講演の様子（ソウル大学校にて）

まず、現代「メディア革命」の進行に基づき、「教育のメディア史」の視点、17世紀日本の「メディア革命」：「文字社会」の成立と出版文化、「教育のメディア史」から見た近世と近代など具体的な内容が紹介された。特に、17世紀日本の「メディア革命」：「文字社会」の成立と出版文化のところでは、日本の「文字社会」の民衆世界（門人帳と町触集）、お家流テキストリスト、手習塾（寺子屋）、武芸立身館双六など貴重な絵の歴史資料が提示され、日本における①「文字社会」の成立、②文字学習の普及と文字文化の共通化、③商業大量出版の出現（17世紀前期）、④「知の風景」の変容：「文字社会」の定着（膨大な近世史料、民衆文字史料）、⑤学問（儒学教養を基礎）の普及、⑥声の文化の復権運動＝文字文化（知識階級）への対抗に対する理解を深めることができた。

これまでの学術交流を踏まえ、今回の学術交流協定により今後も東アジアを中心とする発展的な学術交流が進められることを祈念している。（文責：趙 卿我）